



我ら岬中

= 教育目標 =

自他を大切にできる心と態度を養い
自己有用感をもてる生徒の育成

- ・人権尊重の視点に立った学校づくり
- ・「誰かの役に立った」という集団の一員としての自信の獲得

いすみ市岬町椎木 1370

| | 男 | 女 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|
| 1年 | 43 | 45 | 88 |
| 2年 | 57 | 47 | 104 |
| 3年 | 59 | 43 | 102 |
| 合計 | 159 | 135 | 294 |

私たちはこんな子どもを育てたい ～学校教育目標について～

5月の風が吹き渡るようになり、年度始めの慌ただしい雰囲気から、学校はようやく落ち着きを取り戻しつつあります。今後、学校の教育目標の具現化に向けて、着実に歩を進めていきたいと思っております。

自他を大切にできる心と態度を養い、自己有用感をもてる生徒の育成

<目標の3つの柱>

人権尊重

- 人権尊重の視点に立って、子ども一人一人を認め、伸ばす
- 子ども自身が自分の人生を楽しみ、同時に周りを思いやりながら、共に前向きに進もうとする心と態度を養う。

自己有用感の育成

- 子どもたちが、「誰かの役に立った」、という経験を積むことで、自分に対する自信や誇りを獲得できるようにする。

人を思いやる優しさをもった生徒を育てたい

協力し支え合える生徒を育てたい

地域との連携・協働

- 家庭・地域と「よりよい学校教育をとおりよりよい社会を創る」という教育の理念を共有しながら、連携・協働する。

岬の風のように爽やかな生徒を育てたい

私たちは、学校教育活動全体を通じて人権尊重の視点に立ち、子ども一人一人の存在を大切にできる学習活動、人間関係づくりを進めながら、他を思いやることのできる生徒を育てていきたいと考えます。また、「誰かの役に立った」「誰かに喜んでもらった」と感じられる場面を意図的に設定し、自分に対する自信や誇りを獲得できるようにしていきたいと考えています。そのためには、学校が地域と関わり合いながら教育活動を進めていくことが有効です。地域の力をお借りしながら、よりよい社会を創る人材を育てる視点をもって教育活動を進めていきます。

そして、微笑みがいつも優しく、人と支え合える、岬の風のように爽やかな生徒に育てて欲しい、そう願っています。

卓球部男子・バスケットボール部、

新人大会に続いて連覇！卓球男子は個人もV！

このたび郡市春季大会が開催され、コロナ禍により練習試合や各種大会が制限されている中、日頃の練習の成果を発揮する貴重な機会となりました。結果は、卓球部男子とバスケットボール部が昨秋の新人戦に続いて優勝。卓球男子は個人も優勝しました。その他の部も一生懸命な戦いぶりが見られました。

勝ったチームは勝ったことを糧に、負けたチームは負けたことを糧に、最後の夏に向けて悔いなく取り組んで欲しいと思っております。



| 部 | 結果 |
|--------------------|---|
| 野 球 | 第3位 1回戦 4対3 大原 準決勝 5対6 大多喜 |
| ソフトテニス | 男子団体 1回戦 1対2 国吉 女子団体 1回戦 1対2 大多喜 女子個人 第3位 ・ ペア 男子個人 第5位 ・ ペア |
| 卓 球 | 男子団体 優 勝 1回戦 3対1 大原 準決勝 3対1 勝浦 決 勝 3対2 大多喜 個 人 優 勝 女子団体 第3位 1回戦 3対2 大多喜 準決勝 1対4 勝浦 |
| バ ス ケ ッ ト ボ ー ル | 優 勝 リーグ戦 77対34 勝浦 37対20 大原 |
| バ レ ー ボ ー ル | 第3位 予 選 2対1 勝浦 1対2 大多喜 準決勝 0対2 大原 |

◆団体優勝を決めた さん(3C:卓球部)「自分が負けたら終わりと思うと怖かったが、一度頭を真っ白にしてから戦った。追い詰められたことで逆にギアが入り、相手の弱点をつくことを考えた。優勝した瞬間はホッとして力が抜けた。」

「地域の力になりたい」の思いを実現～総合的な学習の時間～ ブックステーションを設置



3年生が、1年時に取り組んだのが、『房総すごい人図鑑』づくり。地域の活性化に取り組む方々のお話を聞く中で、自分たちも地域を楽しくする企画づくりに挑戦しました。

その一つが、長者町駅と太東駅の待合室に『ブックステーション』を設置するというアイデア。指導にあたってくださった一般社団法人picobirds代表磯木淳寛さんの尽力により、1年間がかりでそれが実現することになりました。3月18日、JR東日本様の立会いのもと、発案者の さん、 さん、 さん、 さん、 さんの手によって素敵なブックステーションが設置されました。

短編集『不思議な食べ物』



2年生が、昨年度に取り組んだ『自由の教室』。その取組の締めくくりが、「不思議な食べ物」をテーマとした短編物語の創作活動でした。

他人の声になれる『ボイスアメ』、花言葉と同じ気持ちを味わえる『花のスープ』など、個性的で想像力豊かな作品がたくさん出来上がりました。磯木淳寛さんのお力を借りて作品集も制作。また、地域活性化に一役買えればと、実際の商品化も計画中です。

学習を机の上で留めるのではなく、地域の方の力を借り、実際の社会と結びつけることで、学習意欲の向上や自己有用感の育成をめざすチャレンジです。

リモート生徒総会を実施



4月27日の生徒総会は、生徒全員が集まることを避け、議長・副議長及び執行部のいる多目的ホールと各教室をライブ映像で結び、リモートで実施しました。この日のために、総務役員の皆さんは運営方法の打合せを入念に行い、当日はスムーズな運営となりました。

また、学校生活をみんながより過ごしやすいように、学校生活の中で改善できることがあるのではないかと生徒アンケートも実施。今後、結果を精査し検討していくことも報告しました。生徒会が、自分たちの学校生活をよりよくするために、主体的に活動しようとする姿はとても頼もしいものです。

初めて参加した1年生は、生徒だけで議事を進めていく光景を見て、大きな刺激を受けている様子でした。

◆ さん(1A)「生徒総会までの動きを先輩方がとても分かりやすく優しく教えてくれたので、当日まで戸惑わずにすんだ。先輩方は会の中で想定外のことが起きても、てきぱき動けてすごいと思った。1年間の計画がわかったので、私も専門委員会の一員として頑張りたい。」

